

- 138044SLPM ブルッフ ヴァイオリン協奏曲1番 / グラズノフ ヴァイオリン協奏曲 E. モリーニ (Vn) F. フリッツァイ ベルリン放送響 録音1958年 イェスキリスト教会 T / Lステレオレーベル フラット重量盤 ジャケットに魅入られて、今回のリストはこのレコードから、聴き始めることに。というのも英PYE社製PF91の調整が予想以上の出来に仕上がってきたから。この2台のクリーム色のモノラルアンプはあまりに音楽的な再生をする。大好きなモリーニを心ゆくまで再生してみなさい、声が聴こえたのです。このところ、ビリビリと振動する空気だけでは、恍惚の音色を出現させるのは難しいのではないかと感じ始めていたのです。右チャンネルはいつものVITAVOXのクリップシュですが、今回の左チャンネルはフランス国立放送局仕様のモニタースピーカー、20センチ口径の仏SUPRAVOX社製（シャルランのシステムにも採用されているもの）ユニットを石膏製の球形エンクロージャーに収めたユニークなシステムにフランスのオーディオ狂がちよとした工夫を施した優れたもの。これが、巨大なヴァイタヴォックスと何故か仲良くなってしまっ、練り込まれた密度でそよ風の音を寄せてくる。DGGが念入りにプレスしたステレオ盤から、モリーニのヴァイオリンの肌理濃やかなソロが立体というか、光に影を添えて吹いてくる。目を薄く閉じて優雅に弓を弾く様子が容易に見えてくる。コントロールアンプのロードを久しぶりに使用するEMI製EPU-1000カートリッジに適合（68kOhm）させてやると、帯域のバランスが整い、過剰な音場の震えが鳴りを潜め、音楽家の巧みな芸が見えてくる。それを英Connoisseur社製Craftsman IIIプレイヤが奏でている。恍惚の肌触りを見せる音色、さらりと流れ出る情感、そして殺のない果汁したたる音に呼吸する生命力。滲みや濁りから開放された清水のしづくにある、あのクリスタルの艶。すべての瞬間が過ぎるには惜しいくらい。スピーカーの存在を感じさせない、静かで押しつけのない音場の液化現象は鼓膜を潤すに十分な魅力なたたえており。その只中に身を沈めると、うすすら寒い日に、陽の暖かさを想い、春を待つ、と書かれた詩がグラズノスのコンチェルトと重なるのです。 盤美品〜ほとんど美品 赤ステレオシール貼りジャケット（10 / 59）きわめて良好 DP #41 ¥55000
- 同上 ブルッフ ヴァイオリン協奏曲1番 / グラズノフ ヴァイオリン協奏曲 エリカ・モリーニ (Vn) F. フリッツァイ ベルリン放送響 録音1958年10月 イェスキリスト教会 T / Lステレオレーベル フラット重量盤 レーベルに非売品サンプルゴム印あり P: エルザ・シラー E: W. ヴォルフ 潜めて低い声なのに、円みを帯びた艶。嘆いているようでもあり、訴えているようにも聴こえる。風になり、水に映えるフォルテ。細い首に浮き出る血管が少し染まるのが見えたりするだけです。耳を澄ますと、こころを掻き立てられる音。「レコードを聴くのはJardin secret（秘密の庭）だね」フランスの友人が先日つぶやいた言葉です。階段の上のニケに頭をくっつけてしまった演奏ばかりの中で、これは頭のないままのニケ。想像がふくらみます。この番号にしては珍しく美品といっても良い保存状態のものです。 盤美品〜ほとんど美品 赤ステレオシール貼り細字ステレオ表示ジャケット（7 / 59）ほとんど美品 DP #64 ¥110000
- 300C086 フォーレ ピアノ音楽全集第5巻 ヴァルス・カプリス1-4番 ピアノのための小品作品84（8曲） ジェルメヌ・ティサンス・ヴァランタン (Pf) 録音1959年 サル・アディヤール 外周茶に黄の音叉レーベル（デュクレテ・トムソン）厚手プレス P: S. モリュ E: A. シャルラン 昨日までの雨が嘘のように晴れ上がった10月のパリの遅い朝、巨大な円形をしたラジオ・フランス (RTF) で、Coup d'Archetのグレン・アームストロングと会う。カプチーノ2杯とクロワッサンを放り込み、4階の迷路を抜けてINAにやってきた。受付のファビアンヌは冗談を挨拶に、中庭に面したモニタールームへと僕らを通した。STUDER製A-807とCABASSEのスピーカーの脇に置かれたテーブルの上、用意されていた銀色の缶が堆積まれている。室の山だ。シールをはずし、缶を開ける。古いAgfa社製テープは手付かずで眠ってる。2人で顔を見合わせ、1961年9月22日、Bourdan51スタジオで録音されたフォーレのテープを回す。まず、『優しき歌』。女性アナウンサーが「ピエール・モレ パリトン、ジェルメヌ・ティサンス・ヴァランタン ピアノ」と告げる。40年ぶりに再生されるテープは、それはうれしそうに音楽を部屋に満たす。音がなまなましい！そして、Pierre Molletという歌手がただものではないことに、2人でうなづく。次にティサンスとレーヴェンゲートたちによるピアノ四重奏曲2番作品115。放送スタジオ録音独特の“静寂と熱気”の魔法がモニターされて、内心インディアナ・ジョーンズさながらの興奮状態。ゴータイエとルフェビュールのモーツァルト ソナタK.379とベートーヴェンソナタ作品111（録音1959年5月31日）、トリオ・ドゥ・フランス（ゴータイエ / レヴィ / ジョウ）によるフォーレ / ラヴェルのトリオ（録音1960 / 58年）etc……。10時から5時まで、英国人と日本人はフランス音楽のGoûtを耳の中でころがし、賞味する。満腹感はなく、聴感覚がどンドン磨ぎ澄まされていくのを感じる。グレンはハマリ、バリ滞在中INAに通い続け、ファビアンヌと冗談を言う日々を送ることになった。（オーケレールのストラヴィンスキー / ルーセル、そしてバルトークの協奏曲がブリリアントだったと聞く） 盤美品〜ほとんど美品 ジャケットほとんど美品 FP #44 ¥43000

バッハ 管弦楽組曲全曲 K.リステンパルト ザール室内管 R.ブルダン (Fl) 録音1959年 ザールルイ 濃いピンクに白のル・クラブ・フランセ・デュ・ディスクレーベル (オリジナル) フラット重量盤 食事のあとに幾種類かのチーズの載せられた板が出てくると、日本人の僕にとってそれは踏み絵のようなもので、どのチーズをどれだけ取るか、フランス人の視線を感じます。大概、見た目が小綺麗なのは大量生産されたもので、彼らに言わせればChemical (化学合成) であり、Eatable (食べても死なない) な存在なのです。聖なるチーズは大概優しいグロテスクな顔して微笑んでいる。彼らがチーズを選ぶのって結構真剣です。青空市ではチーズ屋台の主人とこれはどう、あれはこうと十分話し込んで、信頼できると判断してから買う。主人は白い紙で貴重品のように入れて渡す。フランス人でもチーズは臭いそうだけれど、一度口に入れば何とも言えない味わいに食事の満身に深みを増す。柔らかいねっとりとしたチーズに小さく切ったパン、そしてワインを転がしていると、口の中で拡がりながら体内に入っていき愉快さがある。大地からの享受。「実際、ワインとチーズが両方生産できるのは、フランスだけなんだよ」と、誇らしげに言う。バッハを聴きながらこんなことを思い出してしまっているのは、リステンパルトが濃厚でありながらもたれず、響きのねっとり不思議なすっきり感のせい。彼らのバッハには常に“身を浸しても良い”という心地よさの誘惑がある。知らずのうちに僕は耳ではなく肌で管弦楽組曲を聴いている。白い包み紙を上げて出てきた音には、空気の恵みに満ちている。空気のゆたかさ静けさ。ほとんどの演奏がトランペットとフルートが喧しいので、この曲はそう好きではなかったけど、これは別だ。以前聴いた時はそれほどでもなかったのに。このバッハがケミカルではないと知ったとき、僕の音楽の聴き方も変わったと思う。プレスの状態も深く、味わいを噛み締めている間に全曲が終わってしまいました。 盤美品 見開きジャケットほとんど美品 解説付 2枚組 FP #51 ¥32000

バッハ 無伴奏チェロ組曲6番 D.シャフラン (Vc) 録音1958年 ベルリン放送局SRKホール ETERNAグリーンレーベル フラット重量盤 古い屋敷の2階に案内され、チューリヒ湖を眼下に窓を開け放しドアも少し開けて、彼女はさっと楽譜を開いて弾き始める。ベンジャミン、レーガー、その他知らないソナタを2曲、最後に「これは難しく、誰もレコードに出来ない曲よ」と恩師マイナルディが作曲したソナタをつかえながらも弾いた。数メートルの至近距離からチェロを聞くと体は痺れるように震える。「あなたのチェロはベルゲです。それもロシュ (岩) のベルゲ (山) です」ありがとう。私、カザルスが好きです「恐れながら、鑑賞者のひとりとして、僕はもうカザルスには動かされなくなりました」演奏が終わったあと彼女はチェロを離さない。突然、先生だったマイナルディやフルニエの形態模写をしておどけてみせる。「ところで、フラウ・ペドラツィ、チェリストって楽器とメイク・ラヴするように弾いているように見えるのですが、そこんところ、どうなん?」。突然彼女は早口のイタリア語でわめき始めた。帰り道友人に訪ねると「そんな失礼な!! 私そんな質問には絶対に答えませんわ。ええ、絶対に。日本人って礼儀正しいって聞いたけど、ほんとにこの人日本から来たのっ」と言われたそう。友人はジョークだからと、とりなしてくれたらしい。エヴァ・ペドラツィ、ミラノ・スカラ座でチェロを弾き、25歳でBBCにバッハの全曲を録音 (瑞 MIRECOURT) している。さて、シャフランのチェロ、あまりに優秀録音なのでいろんな音で再生できるのですが、今回彼女のチェロを聞いたおかげでチェロ再生の面白さがわかってきました。このバッハ、どんな音で聞いても、すごいものはすごい。 盤美品 上開きジャケット (60) ほとんど美品 10インチ DP AESカーヴで再生 #51 ¥15000

ドヴォルザーク ヴァイオリン協奏曲 J.マルツィ (Vn) F.フリッチャイ ベルリンRIAS響 録音1953年 イエスキリスト教会 T / Lレーベル フラット重量盤 P: W.ローゼ E: H.シュタインケ / G.ヘルマンズ 昨日のこと、マルツィが全ての録音に使用したといわれる、カルロ・ベルゴンツィ作の銘器「タリシオ」(チューディ・マルツィ) に出会う光栄に浴しました。東京在住のMmeジロードンが所有しており、英サセックスのグレン・アームストロングが紹介の労をとってくれたのです。Mmeジロードンは、この「タリシオ」をマルツィが所有していたとは全く知らなかったにもかかわらず、一緒に並べられていたストラッドには目もくれず、瞬間的に「このベルゴンツィ!!」とインスパイアされ、数年前、大変な苦勞をされてコレクションに加えられたのです。1733年製とは信じられぬ程、赤味がかったニスと澄んだ艶のよさ、補修された跡のほとんど無い完璧なまでの美しい保存状態。ブラームス協奏曲のジャケット写真でも確認できる、側板のくっきりとした縞 (虎) 模様。胴のくびれの大きい麗しい姿!! 伝説的なヴァイオリン蒐集家タリシオがソファでこれを抱いて死に、ヴィヨームが馬車を飛ばして遺族から奪うようにして買い取り、ヴェルレを経由し、リービヒ男爵が所有し、1936年チューリヒのフーク商会でマルツィの最初の夫、ダニエル・チューディが買い求め、花嫁にプレゼントするまで、「タリシオ」は、ヴァイオリニストに所有されたことはなく、初々しい姿で彼女と出会い、数々の名録音を残すことになるのです。マルツィはこの贈り物を殊のほか喜び、抱いて寝たほどだったそうです。「タリシオ」は、手に持ってみると予期していたよりずっと軽いの、その高貴な肌触りは逆にたくましい筋肉のひきしぼりを感じます。工房職人の山本さんによれば、「このヴァイオリンの特徴は音の強さ。どンドン強く弾かれても音が潰れません。ポジションがきちっとしており、すごく大切に扱われていたようですね。当時の年代の楽器で、表板に割れがまったく無いというのは本当に珍しいですよ」。爪弾かれたアルベジオはアルマニャックのコクが香りを残すよう。これを弾いて、あまりの音の艶やかさに、泣き出したヴァイオリニストもいたそう。もし余裕があれば、復刻盤を置いて、ぜひオリジナルを聴いてみてはいかがでしょう。値段は高いけれど、確かにマルツィの音楽に近づける、と彼女が愛したヴァイオリンに触れた質感が、まだ少し掌に残っている今、思いました。 盤ほとんど美品 糸縫い見開きジャケット少々痛み DP #19 ¥48000

LXT2865

R.シュトラウス 4つの最後の歌 『アラベラ』より二重唱 リーザ・デラ・カーサ(S) K.ベーム VPO 録音1953年 ムジックフェラインザール 内ミゾ金文字レーベル フラット重量盤 P: V.オロフ E: C.ウィンドバンク/G.ウエント 一度、ヨーロッパに行くに20日程を過ごすことになるのだが、そのうち半分は、宿に帰るのが午前様になる。誰かしらと晩御飯を一緒にすることになるのだ。今回印象に残ったのは、パリ郊外モンリュエでスウェーデン女性がやりくりしているレストラン。瀟洒な裏庭に降り、蟬囀がぼんやりとしたテーブルについて、シェフが工夫を凝らした、アンヴァンションといいたくなる機智に富んだ皿の数々を出す。値段の割りに食材も上等すぎるくらいなので、いつも満員。おかげで、スウェーデン女性は料理人より安い収入しか得られないようだ。あつという間に0時を過ぎ、メートル・ドテルが「ご近所に迷惑をかけますので、あとのおしゃべりは館内でしてくださいな」。友人の車で送られてヴォージュ広場の宿に着くのが1時過ぎ。こころもおなかも一杯になって意識がなくなる。こういう晩が、幾日も続くと、「生きている」という実感が通奏低音となって、晩飯の話が、また弾んでしまう。日本にいるときは、「僕はこの国に生まれて良かった」と思うけれど、ヨーロッパ人たちにあって愉快な話をすると、「帰りたくないかな」とつぶやいてしまう。例えば、ベルリンの夜。例によって夜中過ぎまで、話は盛り上がり、タクシーを頼む。助手席に座り、行き先を告げる。ヒッピー風の運転手が「合点、ゲルン」と吹き、メルツェスは動き始める。「何しに来た」というから「ヤクザな商売で」。「音楽が好きなのか」と僕が持っている袋を指す。「少し」「クレンペラーを知ってるか」「あまり」宿の前にタクシーが着くと、ヒッピー風はダッシュボードを空けて、クラシックのCDをごまんと見せる。1枚出したのはシュヴァルツコップとセルの4つの最後の歌だ。「これを知ってるか」「僕は彼女のもっと古いモノラル盤の方が好きだ」ヒッピー風は暗い車内で目をギョロリとさせ、ドイツ語交じりの英語で、曲について、演奏家について蓋審を傾けた。最後に「この曲で一番良いのは誰か知ってるか」長話のおかげで、宿を目の前にメーターの料金が上がる。「さあね」と、投げやりに応えると、「デラ・カーザだぞ」といった。「知ってるか」というので「知らない」と応えた。デラ・カーザがどんなに優れたソプラノか、たっぷり聞かされた。メーターはためらわずに上る。やれやれ、無罪放免されて車を降りた。ヒッピー風、上った分は受け取らなかった。「デラ・カーザ」と陰気について、車は消えた……。浪漫の花咲く頃、木綿の白いシャツが似合うデラ・カーザを前にして、耳の瞳孔は開きっぱなしだ。カットイングレヴェルがかなり高いので再生には注意が必要です。 盤ほとんど美品 ジャケット(54.1)ほとんど美品 EP ffr (1953) カーヴで再生 #62 ¥24000

CVHS2054

ラヴェル ピアノ独奏曲全集 S.フランソワ(Pf) 録音1966/7年 サル・ヴァグラム パリ/サル・ド・アルカザール モンテカルロ 赤に白文字仏VSMニッパー茶STEREOレーベル(オリジナル) P: E.マクレオー E: P.ヴァヴァスジュール 英ASD未発売 パリでフランソワの2番目の奥さんと話す機会がありました。お城に住む家系の雅やかなマダムで、大戦中彼女の両親はユラ・ギュラーやクララ・ハスキルをかくまった事もあったそう。話しぶりはゆっくりとしていて、華があります。「最初の奥さんと別れたばかりの彼は、芸術家たちを理解した家柄で財産がそこそこ(彼女はそう表現して)あった私と再婚したのよ。結婚したその晩から、彼は帰ってこなかった。サン・ジェルマン・デ・プレのジャズクラブに入り浸っていた。毎晩毎晩、浴びるように呑み、ピアノを弾き、マドモワゼルやマダムと遊ぶ。確かトキオに行った時も、着いたその晩からジャズピアノを弾きに出て行ったんだわ。だから、彼のラヴェルは本物よ……」。この札付きの男の最初の奥さんは、あのミシェル・オークレール。フランソワと彼女は、ロン・ティボーコンクールで同じ年にピアノ部門とヴァイオリン部門で優勝し、その時オークレールはこの悪玉ピアノ弾きに一目惚れしたのだとか。そして結婚、あつという間の離婚。フランソワそのものの視点でラヴェルのスコアは克明に具現されている。自分勝手なリズムと濡れる低音の悪意……。旨味たっぷりな音でカットイングされており、フランスのエンジニアが意図するピアノのダイナミクス再生、透明なしずくの音の連なりなどは、このCVHSオリジナル盤でない。聴いてみてください。 盤美品〜ほとんど美品 箱(CVB番号)ほとんど美品 解説付 3枚組箱入り FP #69 ¥34000

2C053-10885

『夢みる少女に』 ショパン 夜想曲2番/春の歌/エリゼへの手紙/ラフマニノフ 前奏曲作品3-2/月のひかり/シャブリエ 田園曲/レントよりおそく/グリーグ 春に他 全11曲 A.チッコーニ(Pf) 録音1965年 サル・ヴァグラム 赤に仏VSM切手ニッパー・ステレオレーベル(オリジナル) 1966年初出 最初のノクターンから、ごく私的な演奏だとわかる。聴いてみて、よろしければ、という感じで。そう言われれば、聴くほうも、あたたかくなる。4年前に来日したときの、日経新聞インタビューを以下に書き写す…戦後半世紀の演奏スタイルの変化をどう思うか?「プロの演奏がスタンダード(模範的)になった」「模範というのは本来、教師が生徒に示す手本に過ぎず、音楽家は自らの個性によって音楽を肉付けするもの。ところが今は皆、正確さが第一とばかりに同じような演奏をする。これでは芸術とは呼べません」「私がロン・ティボーで優勝した頃、『国際』と銘打ったコンクールは世界で4つしかなかった。ところが現在は同じ顔ぶれの審査員が並ぶコンクールが何百とある。これでは個性的な演奏が出てくる余地はない。彼は審査員もピアノ教師だけではなく、批評家や音楽マネージャーなどが加わるよう提案する。「そうすれば、テクニック偏重の減点方式による審査は少なくなるでしょう」正確さから個性重視へということでしょうか?「いづれ振り子は逆に振れると思う」「面白いと思ったら少々の傷には目をつぶって受け入れてみる。そんな聴き手が増えることを期待しています」。そういう音楽家(演奏家ではなく)が増えて欲しい。チッコーニは今年もシャンゼリゼ劇場で、誰も真似できないドビュシィを披露したそうです。 盤美品〜ほとんど美品 ジャケットほとんど美品 FP

#68 ¥5000

- 33CX1422 チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲 / サン・サーンス 序奏とロンド・カプリチオーゾ M.レピン (Vn) A.ガリエラ PO
録音1956年 ホーンジー・タウンホール 最初期プレス たえばヒッチコック映画が、他愛のないストーリーばかりなのに、「そのドアを開けちゃだめだ」と心の中で叫ばせるのは何故? チャイコフスキーのコンチェルト、誰もが最初から終わりまで筋を知っている。ヴィルトゥオージティが旋律に妖かしの命を吹き込んで、ブロード娘がスピーカーの前に登場する。ハラハラ、ドキドキ、危険の潜む背景を尻目に、ブロードはトルコの短剣を優美な旋律曲線で振りかざす。果たして、これが低俗かい? 音質は折り紙付きのBRITISH SOUND。さまたげのないヴァイオリンの響きと音色が刻まれていると、スピーカーが本能でヒラメキの瞬間を連続して奏で始める。鳥肌が立つ。 盤美品〜ほとんど美品 文字ジャケットきわめて良好(外周保護のためテープ貼り) EP BRIT-LPカーヴで再生 #41 ¥37000
- ALP1522/4 ドビュッシィ 『ペレアスとメリザンド』 A.クリュイタンス フランス国立放送管 ジャンセン / デ・ロスアンヘルス / スゼー / オジュア他 録音1956年 バレ・ド・シェロー パリ 最初期プレス P: R.シャラン E: W.ルールマン ドビュッシィがあらん限りのエロティシズムをスコアに注ぎ込んだこの歌劇。焦点はメリザンドの存在に他ならない。デ・ロスアンヘルス演ずる主人公は汗気の多い女である。だから、清らかなヨアキムが強烈に放っていたエロティシズムとはまた、異なる。この歌劇ではソプラノがいくら巧く歌おうが、問題にならない。言葉の端はし、しぐさの刹那、といったものを、聞き手が“感じる”かどうかキモになる。ジャック・ジャンセンは大した役者で、性の触媒になり、濡れるメリザンドをその気にさせた。あるフランスの画家と話したことがある。エロティシズムについて。男に恐れを抱かせる眼の持ち主ならば、それで十分、ということで一一致した。怖い眼をしたメリザンドなら、絶対ヨアキムだ。レコードでは歌手の眼は見えないけれど、声に開いた眼を見ることはできる。最後の一言が消えて、強烈な戦慄の余韻に震えるとき、僕らは気付く。歌劇を観ていたのではなく、覗いていたのだと。今回のセットはインターナショナルな装丁です。盤は英HMVのALPオリジナル、箱と内ジャケットは仏Pathéオリジナル、そして解説は英HMV、糸綴じ仏Pathé、そして米Angel(仏メルキュール製)と3冊がついて、それぞれに異なる録音風景写真が多数見られるのも楽しい。保存状態も良好です。 盤美品 箱ほとんど美品 解説リブレット3冊付 3枚組箱入り EP BRIT-LPカーヴで再生 #57 ¥39000
- ATH259 『カールロベルト・クライテンを偲んで』 ショパン前奏曲21番 16番 / ブラームス バガニーニの主題による変奏曲 間奏曲3番 / シェック トッカータ / J.シュトラウス 美しく青きドナウ / テオ・クライテン ソナチネ / ショパン 夜想曲遺作 K.クライテン (Pf) 録音1934-8年 銀にエンジのTHOROFONレーベル(限定版オリジナル) テレフンケンプレス 1933年ウィーン国際コンクール、16歳のリパッティは2位にとどまる。彼の1位を主張したコルトーは、この結果に激怒して審査員を辞退した。そのときの1位は17歳のクライテンだった。オランダ人を両親に持ち1926年ボンに生まれる。デュッセルドルフで育ち、ケンブヤギーゼキングの次の世代で最も注目されるピアニストとなった。フルトヴェングラーの寵愛を受け、将来はますます明るい。事件は1943年演奏旅行中のベルリンで起こる。スターリングラードでのドイツ軍敗走の報を聞き、彼は友人に漏らす。「この戦争は負ける。ヒトラーは狂人だ。ゲッベルスは犯罪者であり、ベルリンが爆撃されるのも当然の結果だ」。ゲシュタポに通報され、即日、クライテンは逮捕・投獄された。「人民法廷」において死刑を宣告され、6カ月後、ピアニストはプレッツェンゼー収容所で185名の囚人と共に絞首刑に処された。27歳だった。ゲシュタポは彼に関する絵でのフィルムと録音および記録を徹底的に消去したため、公式録音はまったく現存しない。戦後、彼に関する本『クライテンとその死』が出版され、多くのTVドキュメンタリーがオン・エアされた。彼の名を冠した受難曲や室内楽も作曲された。そうして彼は“録音のないピアニスト”として名を残すことになる。死後40年が経ち、このLPが世に出る。音源は兄のテオが命がけて隠していたプライベート録音のシュラク盤(各演奏の後に曲目、演奏家名、録音地、年月日のアナウンス)だった。最後に刻まれている遺作のノクターンが終わって、針が内周を空回りする。闇の大紅蓮。実に重いレコード。 盤美品〜ほとんど美品 ジャケット美品 DP #61 ¥11000
- C30A378 ドビュッシィ ベルガマスク組曲 ピアノのために ロマンティックなヴァルス マズルカ ノクチュルヌ ダンス J.フェヴリエ (Pf) 録音1962年 パリ 白に黒と金のVÉGA堅琴レーベル E: D.マドレーヌ 昨日、モダンダンサーのアンヌにファクシミリを流した。「先週君が踊ってくれたパフォーマンス『ヒロシマ モン・アムール』について一言。あれは広島で被爆した若者とナチスに協力したかどで疎外されている女が、パリで恋に落ち、別れるという一夜の出来事だったよね。君たち2人が踊っているうちに、見えない情念を感じようとしている自分に気づいた。君たちの動きの裏側というか、数秒後の動きを起こさせる生命を追っていると、一晚という、人生のなかでは一瞬に過ぎない点の存在が見えてくる。それは過去への鏡の入り口であり、見えない将来への不安定な液体のスタート地点だ。時間のヤジロベエの支点のはかなさを、錆びたクサビを、鈍く打ち込まれた気がする……。君が遠くを見るときの眼差しは、どんな踊り手にも真似の出来るもんじゃない。でも、舞台の度にそれをやるのはどうだろう。スタイルはどんどん捨てなくちゃ。そうでないと新しい創造への欲望は生まれてこない。続けるのは誰でも出来る、でも止めるのは難しい。……」。翌日、絵のようなアルファベットで長々と彼女は書いてきました。「旅程を変更してまで見に来てくれてありがとう。舞台のあとで、バーでいろいろ話ができてうれしかった。あなたの話は面白いこと。特に時間の点のあたりのフレーズに、多にインスパイアされる。いつも思うことだけれど、どうして知らない人のほうが、ダンスの専門家の

話より楽しいのかしら。専門にやるということは、世界を狭めることになるのかもね。……」ベルガマスクの最初の音で、このピアニストは「いわゆる練習は一切しない」に違いない、と直感させる。じゃなければ、何十回も聞いたこの曲が、聞いたこともなかったように流れるはずがない。いまはデッキのモノラルカートリッジで2つのスピーカーを鳴らして聞いている。
盤美品〜ほとんど美品 ジャケット美品 FP #42 ¥21000

LDZ-M-8145 ラヴェル ヴァイオリンとチェロのためのソナタ ジャンス・ゴートイエ (Vn) A.レヴィ (Vc) 録音1956年 バリ クリームに茶のLE CHANT DU MONDEレーベル フラット重量盤 最初の大戦が終わり、サティと『6人組』の時代が訪れます。若い音楽家達の気風は“ドビュッシィの霧とラヴェルの上品さ”に嫌気をさすのがよとした時代がきたのです。戦争から帰還して、上品な“プチ・ブルジョワ”と見なされたラヴェルが、蓄えていた本気を一気にぶちまけた作品。1922年4月22日サル・ブレイエル、作曲家同席の下、ユニークなソナタは試演されました。ヴァイオリンはエレス・J=モランジュとチェロはモーリス・マレシャル。その作風は衝撃的で、『ザルツ・ブルジョワ(モーツァルト風の洗練された、上品な)』とラヴェルは別刷したのです。しなやかな語り始め、懐かしいバンジョーの響きのピツィカート、音楽をオゾン化するアンダンテ、気むずかしい戦慄のブリオ。視力を失った晩年のクロード・モネが憑かれたように心の眼に映る形の無い色を塗り潰していったように。このレコードを携えてフランスからイギリスに渡ったとき、待ち切れずに針を下ろしました。夕食のモツァレラ・ハンバーガーを作っていた友人が、台所からやってきて「これ、なんて曲? 弾いているの誰?」。凶牛病かもしれない純英国産のビーフで作った料理を頬張りながら、ラヴェルとゴートイエの話に華は咲きます。初演者のモランジュに師事したゴートイエのヴァイオリンは濃いむらさき。レヴィのチェロも本気らしく、ものすごい絡みを見せます。ジャケット裏にはモランジュの格調高い文章が寄せられています。このレコードを聴いたのがきっかけでL'Archet D'or シリーズは企画製作されました。 盤ほとんど美品〜きわめて良好 ジャケットきわめて良好 33回転21センチ盤 FP AESカーヴで再生 #25 ¥180000

LM6017 ファリャ 『はかなき人生』 E.アルフテル パルセロナ歌劇場管 デ・ロスアンヘルス/シビル/ゴメス他/『スペイン民謡集』(第4面 10曲) デ・ロスアンヘルス (S) 録音1952年 米RCA-S/Dレーベル(米オリジナル) 録音会場だったバルセロナのパラウ・デ・ラ・ムジカ劇場。あの、音楽が鳴り始めた途端に劇場が呼吸する、僕が世界で一番好きな劇場です。ガウディの師だった、ナントカいう人の設計で、天上の星雲を思わせるシャンデリア、明るい花園の柄のステンドグラスが外光を取り入れる壁面、柱にそよぐ無数の花のタイル。舞台は客席に深く迫り出し、両袖の上には天馬の像が駆ける。奇怪なアール・ヌヴォーの劇場の空気は生命体であり、演奏者と観客はその細胞のひとつである。この録音はそれを実によく捉えている。第4面前半のチェンバロ伴奏のスペイン民謡の5曲は、ALPには収録されなかったチェンバロ伴奏のロスアンヘルスの佳唱のゆえ、この米盤はほんとうに貴重です。 盤美品 箱きわめて良好 解説リレット付 2枚組箱入り US #43 ¥14000

LP25-192 『ロンポンのこだま』 バッハ アリア(ピアード編) 目覚めよ、と呼ぶ声す(ブゾニ編) 主よ、人の望みのよこびよ(ヘス編) 私は主に祈ります(ブゾニ編) ラルゴ(ボヴェ編)他 全8曲 ジャンス・ボヴェ (Pf) 録音1972年3月 青に銀のECHOS DE ROMPONレーベル(限定版オリジナル) 「俺、涙が出ちゃってさ」。スイスでトーレンスのプレーヤーの修理調整を習得してきた友人がぼそりと言いました。「あのレコード、バッハのコラールでね、指先まで感情が込め抜かれている。その感情が深いところでコントロールされているのに気付いたら、出てきちゃったんだよ、涙が」。「最初は、センチメンタルなのかと、思ったら、全然違うんだもの」。この音に打たれて、彼はトーレンスの修理を真剣に習うこと決心します。今回リストに載せるボヴェの盤は、すべてスイスの友人がボヴェの所持していた盤を譲り受けてきた新品です。この音を聴いていると、何かが触れるのです。 盤美品 ジャケット美品 10インチ スイスTURICAPHONプレス #64 ¥110000

LP30-538 『ロンポンのこだま』 バッハ パルティータ1番/スカララッティ ソナタ(11曲) ジャンス・ボヴェ (Pf) 録音1976年 ロンポン礼拝堂 フランス 青に銀のECOS DE ROMPONステレオレーベル(プライヴェート版) 先月、友人のハンス君(スイス郵便局員)がボヴェと面会してきたというので、早速話を聞きました。「ジャンスの家の扉が開いて入った途端、なんともいえない清楚な雰囲気気圧に圧倒されてね、一目見てこのピアニストはとてつもなく豊かな心の持ち主だっということがわかりました。かくしゃくとしていて、87歳とは思えない身のこなしで、毎日7時間ピアノの前に座るそうです。そして年配の音楽家たちが次々に亡くなってしまふのを、深く悲しんでいる」。ハンス君は続けます。「ジャンスはパリ生まれで、ブーランジェ、コルトー、ルフェビュールに師事したそうです。大戦中にパリからベルンに移り、そこの音楽院教授になりました。1964年、スイス国境に近いロンポン村のはずれにある廃屋同然の礼拝堂を3000フランで買い取り、以来慈善演奏会を開いて、この礼拝堂を復旧したそうです。100人程しか席がない礼拝堂の扉は開けられて、入りきれなかった人たちは外で彼女の演奏を聴いたそうです。年々、演奏会には多彩な音楽家がやって来て演奏していきました。アンドレ・レヴィ、ルフェビュール、アンリ・オネゲル等々。最後に何故ロンポンなのか、と聞くと、中世の色を濃く持っている、自然にあふれているからです、と答えてくれました。彼女に会ってから、僕自身の中で何かが起こったような気がしているんです」。 盤美品 ジャケット美品 スイスTURICAPHONプレス #54 ¥65000

- LP8239 ミヨー ヴァイオリンソナタ2番 R.セタン (Vn) シュザンヌ・ロシュ (Pf) / ルシュール Fl,OB,Vn,Va,Vc,Cbのための六重奏曲 アルマ・ムジカ六重奏団 1953年初出 外周金にグレー少年像レーベル (デュクレテ・トムスン) フラット重量盤 ロベール・セタン、プロコフィエフが第2協奏曲を献呈したヴァイオリニスト。彼の唯一のLP録音。KAULだったかKOULだったか、そういう名のフランス製のヴァイオリンを好み、ここでも湯上がりの鼻歌をなめらかに始める。まったく、独特の音色の持ち主で、力みを知らずにぐるぐる回る。キリキリと静かに燃え上がるところがまたいいのです。セタンは1000頁余に及ぶ音楽論文 (未刊行) を書き了えて、数年前90歳歳で他界した。先日2分冊の分厚いゲラ刷りを見ました。本当に音楽が好きだったんですね。#38に出しましたが、今回も何故か白ジャケット入り。ただし、最終楽章に継続するティック音あり、あとはきわめて良好。裏面は良好程度です。白ジャケット入り 10インチ FP NABカーヴで再生 #49 ¥15000
- LPP8718 ドビュッシィ ビリチスの3つの歌 忘れられた小唄 古澤淑子 (S) A.コラーレ (Pf) 録音1952年 バリ 外周金にグレー少年像レーベル (デュクレテ・トムスン) フラット重量盤 1953年初出 明らかに日本人です。7インチに吹き込まれたドビュッシィ。滑らかな声色淡く、風は首筋に触れては過ぎる。満州に生まれ、戦中戦後にパリで修行したソプラノ。大戦中パリの楽壇でどのようにして生き延びたのかは知らないけれど、肉の薄い白い声の裏にひくつく快楽をもつ。歌姫リュシエンヌ・ベソン=モフランジェはエクスターズ (恍惚) がいきつくところをベル・エボックの作法で表現しきつたけれど、古澤にはあの世とこの世を結ぶ白拍子が詠うようなやるせなさが迫る。すごいのだ。初めてこの録音を聞いたとき「声は瘦せている、柳に風、表情薄い不思議な誘惑」と感じたけれど、……今は、ドビュッシィの小唄を薄ら寒い無表情でうたう彼女に僕の耳は反応している。フランス語で詠っているのを忘れるくらい、誘い込まれて。思いのほか高水準の録音、歌手の気配が強く立つだけでなく、この時代の空気までもが部屋に撒き散らされる、レコード独特のエネルギーの量質。逆に、こうした高水準のモノラルを古ぼけた装置でぼんやりと流すのも粋です。をみなのかえ、こわい。 盤・上開きジャケット共ほとんど美品 7インチ33回転 FP NABカーヴで再生 #33 ¥15000
- LPR718 『フランス歌曲リサイタル』 ドビュッシィ 忘れられた小唄より そはやるせなき他5曲 / フォーレ イスファハンの薔薇他4曲 / ルーセル 夜のジャズダンス他全12曲 リュシエンヌ・ベソン・モフランジェ (S) J=C.リシャール (Pf) 1959年初出 水色に白抜きMassiliaレーベル (プライヴェート盤) ナイフエッジ重量盤 忘れられた小唄の第1曲「C'est l'extase……」直訳すれば「それは恍惚……」なのだけれど、「そはやるせなき……」と訳させた日本人は、すごい!! 性器から立ち昇る蒸気を、5つの音譜で簡潔に描いてしまったドビュッシィは、もっとすごい。「恍惚」ではなく「やるせなき」を僕が聞いたのは、いまのところこの録音だけ。色が絡みます。初老の歌手のようです。耽美という言葉しか見当たりません。往年の大歌手の風格を備えています。大きな声を出さずに、クライマックスに達する。ほとんどささやくように、夜の冴えた妖気をまとうて歌う。曲が始まるたびに、ワクワクする。陰画にしか出せないかほりとリアリズムと恐怖、そしてエロチズム。知らず声はみずみずしくなると、音の姿が消えないで欲しいと願う。ドビュッシィもフォレもラヴェルも、こんな風に軽い魔を歌って欲しかったんじゃないか? 彼女、このレーベルに、あと10インチを5枚ほど吹き込んでいます。 盤・ジャケット共ほとんど美品 10インチ FP #36 ¥33000
- LX3052 ドビュッシィ 歌曲集 3つのビリチスの歌 恋人たちの散歩径 忘れられた小唄 シュザンヌ・ダンコ (S) G.アゴ스티 (Pf) 1951年初出 内ミジ金文字レーベル フラット重量盤 今年の夏はプロヴァンスで友人たちの家族と人里離れた家で過ごしました。昼食後の熱い昼下がりは鑑戸を閉めて昼寝です。家の中は暗い。起きてきて絵葉書を書いたり、夕食の下ごしらえをしたり、スピーカーの箱の設計をしたり、……たまたま、音楽をかけます。マスネのアリアやR.シュトラウスを生き生きと歌うソプラノが流れています。「誰?」と聞けば、「シュザンヌ・ダンコ」と答え。暗い石の居間で聞くダンコはなかなかいい。生身の動きがある。聞き慣れた曲ばかりが9曲、どれも本当に生きている。アゴ스티のピアノも核心をついている。 盤美品〜ほとんど美品 ジャケット (日付なし) きわめて良好 10インチ EP ffr78カーヴで再生 #51 ¥10000
- 同上 ドビュッシィ歌曲集 ビリチスの3つの歌 忘れられた小唄 (そはやるせなき・巷に雨の降るとく他6曲) シュザンヌ・ダンコ (S) G.アゴ스티 (Pf) 録音1950年 内ミジ金文字レーベル フラット重量盤 またレコードの殻がはがれて、これまで見えてこなかった音場のたたずまい、を前にして少し僕は興奮している。というのも、英デッカのLPイコライザーカーヴは、1949年から55年にかけて4種のカーヴが存在していた、ことが判明したからだ。今週、スウェーデンの引退したエンジニアが、プライヴェートに作製したフォノイコライザーが届き、自分の機器に取り付けた途端、耽溺している。このエンジニア、アンプはもとより、レコードについて熟知しており、解説書を読んだだけで、これはすごい、と納得した。これまで、ほとんどの愛好家は、2つの数値つまりバス・ターンオーバーとトレブル・ロールオフでイコライザーは決定される、と思いついてきた。しかし、それではどうしても超えられない何かがある、と予感してもいた。これは、その2つに加えてバス・ロールオフを加えたところが偉い。これが、これまでの概念をくつがえす再生法が可能になる。たとえば、RIAAとColumbia LPは、これまで、ターンオーバーは同じ500HzだがBass Roll-offは50Hzと100Hzと異なる。聴感上、かなり異なる音形となる。しかも、この数値は低域ランブルフィルターの要素もあるが、低域以上に中音域 (750-950Hz) へ影響を強く及ぼしている。つまり、ターンオーバーの

数値が同じでも、バス・ロールオフの数値が異なれば、再生音は別物になる。“失われた曲線”を求めて、これまで頭を悩ましてきた大疑問は英デッカである。これまでの市販のフォノイコライザーは、DECCAやFFRRという限りなく怪しいポジションがある。ではそれぞれが大きく異なる4種の英デッカのカーヴを、どうやって再生できるのか。フォノイコライザーをプリアンプにつないでトーンコントロールで調整すればという答えが返ってきそうだが、プリアンプにフォノイコライザーをつなぐと鮮度が低下して、音楽を云々する水準の再生音にはならない。この英デッカに限らず、どのレーベルにも数種いやそれ以上のカーヴがあると信じる。それを、解決するのは、完全にレストアされたイコライザーとトーン・コントロール機能を併せ持つ1950年代製コントロールアンプとメインアンプの組み合わせ、または、3つの切り替え点を持つフォノイコライザーを直接メインアンプに繋いで使用するのが、まっとうな方法と思う。もちろん、音質も含めて。価格の高いものだけに、また、不可解な謎を秘めているだけに、イカゲンなフォノイコライザーが市場に横行しているように思えてならない。と、面を変えて針を下ろせば、一皮も二皮もむけた音場から、真に迫るブリティスをダンコが歌い始める。その音場のたたずまいの清楚なこと。DECCA (1949) カーヴの目安は、AESポジションで、BASSを減らし、TREBLEを増やす。 盤美品～ほとんど美品 ジャケット(日付なし) きわめて良好 10インチ EP DECCA (1949) カーヴで再生 #66 ¥18000

LXT2503/5 パッハ フーガの技法(ヴェアタ編) H.シェルヘン ベロミュンスター放送管 録音1949年 ベロミュンスター スイス 内ミゾ金文字(2枚)と外ミゾ金文字(1枚)レーベル フラット重量盤 1922年以来指揮してきたベロミュンスターのオーケストラと別れるにあたって、シェルヘンがかねてよりロジェ・ヴェアタに編曲を委嘱した弦楽合奏版で録音した3枚組です。1935年、彼はこの曲を振るにあたって「感情、審美的な欲望、そして魂の開放感をすべからず欠く音楽を、プロフェッショナルな人たちは至高な音楽と思い込んで、演奏会で提供している。そんなものは普通の聴衆にとってみればどうでもいいものなのです」と、言っていた。すでに僕はブランデンブルクの仏CFD盤を知っているだけに、シェルヘンの言いたいことは分かる。裏返して言えば「情かまして、セックス、覚醒なんでもありで盛り上がろうぜ」と、言っているのです。これを録音した年、母は亡くなり、4人目の妻だったシャオ・シューシエンは3人の子供を連れて中国に逃げ帰ります。シェルヘンは自殺未遂騒ぎを起こしますが、まったく心配するに及びません。間もなくピーナ・アンドロネスクと5度目の結婚をし、更に5人の子をもうけます。話は長くなりますが、この演奏を聴いて、もうひとつ書き添えておきたいことがあります。以前、ミラノのカステロにある『ロンダニーニのピエタ』について書いたことがあります。先日、パリの友人が教え子を持って見て来たのです。その友人と、5月晴れの空の下、昼食を庭でいただいたとき、その彫刻のことでテーブルは盛り上がりました。十字架から下ろされたキリストをマリアが抱き上げようと彫られていた像が、完成間際にキリストがマリアを背負う像に変えられた。それは製作者の死で、完成することなく置き去りにされた、ミケランジェロの最後の作品。変更するのが中途だったから、イエスとマリアの顔を2つずつ持つ彫像。ちょっと不気味で、横方向から見る生命感の崇高さに圧倒されて立ちすくんだのを覚えています。そこには制作者の存在が見えるくらいに、未完のライヴ感があつた。友人はわざわざ、その彫刻の本をミラノで買ってきてくれたのです。このレコードを聴いていたら、網膜に強烈に焼き付いていた『ピエタ』が滲み出てきたのです。血の匂いがするからでしょうか。彫刻からも、パッハからも。尚ベロミュンスターはスイス放送局所在地でルツェルンの近くにありま。 盤ほとんど美品～美品 ジャケット(日付なし)ほとんど美品 3枚バラ組 EP DECCAカーヴで再生 #64 ¥35000

LXT2642 ベルリオーズ 幻想交響曲 E.v.ペイスマ COA 録音1951年 コンセルトヘボウ 内ミゾ金文字レーベル フラット重量盤 P: V.オロフ E: K.ウィルキンソン たしかにベルリオーズはモーツァルトとはまた違う意味で、演奏家の資質が試される曲をたくさん作りました。完璧を期した正確さ、適切なニュアンス、的を得たフレージング、そしてディテールへの気配り……、それらを完遂したとしても、結果は真実からはちょっとズレが出来る。それがベルリオーズ。この盤を聴くにつけ、コンセルトヘボウの猛者たちが練習をきっちり以上にこなしたのが良く見えています。その結果、指揮者とメンバーたちがアンサンブルに気を取られることなく、完璧に音楽の帳尻をつけていく。そこに、音楽が自ら生命を宿し、輝き始める。例えば、死刑台への行進。類まれなスタッカートを彼らは披露していきながら、弦のサウンドは憂いの影を宿している。こうした無意識というか、意識の底に横たわる透けた幻想を、彼らはスコアから読み取っている。すごいことだ。録音技師ウィルキンソンも彼らの真摯なりハーサルを通じて触発されたに違いない、LXT史上屈指の音楽的再生音をやり遂げています。 盤美品～ほとんど美品 ジャケットほとんど美品 EP DECCA (>1952) カーヴで再生 #68 ¥13000

SB2037 ストラヴィンスキー ペトルーシユカ / 組曲『火の鳥』 P.モントゥー PCO 録音1956年 メゾン・ド・ラ・ミュチュアリテ バリ 赤に銀入りヴィンダステレオレーベル 1K / 1Kスタンパー P: J.カルショウ E: R.ウォレス メトロの階段を出た途端、花束、野菜、果物、肉、チーズの市がわっと目に入り、人混みをぬけて2分も歩くと、メゾン・ド・ラ・ミュチュアリテがあります。ミュチュアリテとは英語のMutualで我国にある互助会に似た組織のこと。建物は1931年に竣工。大小10のホールを持つこの建物には、ナイトクラブ、眼科医、歯医者、入院可能な小規模の病院が入居しています。マネージャーのニコルさんは早速、当時録音に使われたSal Aに案内してくれました。1階1100席 / 2階700席の丸いホールです。このホールは2階が地表と同じレベルで、1回は地下になるわけです。ニコルさんはデッカがここを選んだのは2階席から大きく張り出したバルコンのおかげで、地上のノイズに惑わされずに録音が制作できたせいだろうと、教えてくれました。互助会の総会が丁度

開かれて演説する人の声がまろやかでありながら、実にはっきりと響いたのが耳に残ります……これはデッカのミューアリアテ録音の最初期のもの。モントゥーと全盛時のPCOがバリの空の下で生き生きと演奏を鮮度の高いリビングステレオに取めた記録です。 盤美品 ジャケットほとんど美品 LSC2113は米未発売 EP #13 ¥39000

STM20101 アルビノーニ 弦楽のためのアダージョ ヴァイオリンソナタ* 五度の協奏曲 ロ調の協奏曲 P.ラマック (Vn) *ドニーズ・ゴアルヌ (CemとOrg) * J.ヴィトルド指揮 シンフォニア 器楽アンサンブル 1959年初出 薄緑に緑の仏CONTREPOINT-vogueレーベル (オリジナル) フラット重量盤 P: J.ヴィトルド 「先月、誘われて、渡り鳥の群れる大堤防を渡り、フリースラント地方をドライブしてきました。特にお勧めはストーンという村。目隠して橋の真中まで歩かされた。ハンカチを取られたときの、運河の兩岸の家々の静かな空気。この光景はいつか見たヴェニス島のブラーノ島の寒村とそっくりだ。何十軒もありながら、誰ひとり居る気配がない。今、流れているヴェニスの作曲家が書いた、アダージョの嘆きは、前にも言ったとおり、圧倒されるダイナミクス。アムステルダムに帰り、食後のブランデーが出る頃になり、友人の元恋人 (一日中運転してくれた) は、こういきました。『本当に音楽を感じるときって、私は、ここから湧き上がるのよね』、と下腹部の大事なところを指しました。日本人は胸からという人が多いけれど、うーん、これは新説だ』。(#35より) 盤ほとんど美品 ジャケットほとんど美品 FP NABカーヴをお試しください #74 ¥5000

SXL2029 チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲 A.カンポーリ (Vn) A.アルヘンタ LSO 録音1956年 キングスウェイホール ラージデッカレーベル (G) 2E / 1Eマトリクス ブルーバックボーダー P: J.ウォーカー E: G.パリエ このあたりから、一般的に初期デッカサウンド (これ以前は原始デッカサウンドとでも呼べる) といわれる、紅いビロードの上に30カラットにカットされたキャッツ・アイが音場にデザインされます。おそらく、録音技術よりカッティング技術に変化があったのでしょう。ゴージャスな音の宮殿に聞き手は魅了されます。エッジは多少希薄になるかわりにスムーズ、音場の密度が濃厚になり、必然として常に音場は魅力的な液化化現象を起こします。心を揺さぶらざるには置かないカンポーリのソロ、オーケストラの立体的なエネルギーの放射によるステレオ音場の雰囲気確立。映画の看板さながらのジャケットのミッドナイト・ブルーの背景が視覚からも音楽心理を刺激します。 盤美品 ジャケット (10-58) ほとんど美品 EP DECCAカーヴで再生 #42 ¥37000

SXL2031 ワグナー 『ワルキューレ』第3幕とブリュンヒルデの自己犠牲 G.ショルティ VPO フラグスタート / エーデルマン / シェヒヒ他 録音1957年 ゴフィエンザール ラージデッカレーベル (G) 1E / 2F / 1E / 1Eマトリクス P: E.スミス E: J.ブラウン ソニック・ステージの草分けとなった録音。VPO録音の主といわれたオロフのあとを襲って、ウィーンのヘッドに就任したカルショウはG.パリエ・J.ブラウン両名と画期的なステレオ録音に取り組みます。“視覚的な音”をもとめて、春にはVPOを初めて振るショルティの第3幕、秋にはクナッパースツブシュと第1幕 (初めからその契約になっており、全曲をステレオ録音する企画ではなかった) この貴重な“実験”は、翌年の『ラインの黄金』に受け継がれます。ステレオという意味も分からない歌手達が、ドタドタ動き回る音を消すのに、軍隊用の厚い靴下を穿かせたり、“原始的な録音装置”と悪戦苦闘してできあがったレコードです。それが、1965年のワルキューレ全曲録音より、ずっと輪郭をはっきりし、音が澄んでいるのは、なんとも皮肉です。ドイツ語も流れずにしっかりと発音され、古風なウィーンフィルの響きゆかしい演奏です。ロンドンのE.M.G.ハンド・メイド・グラモフォン有限会社の1959年1月の領収伝票が入っています。1958年12月初出ですから、これが初版といえましょう。 盤美品 箱良好 解説・リブレット付 2枚組箱入り EP #14 ¥35000

V.6833 『18世紀の鍵盤音楽』 クープラン シテールの鐘 花ざかりまたは優しいナネット 神秘的な拒絶 小さな風車 朝の夢 他6曲 / デュ・フリ ラ・ド・ヴァルマレット / スカルラッティ 3つのソナタ マドレーヌ・ド・ヴァルマレット (Pf) 録音1965年 スタインウェイホール パリ 深紅に銀のVoxigraveレーベル (限定版オリジナル) P: P.ファラッジ E: J=Y.ロベール フランス語の語感でクープランを弾いているのがわかります。フランス語独特の弱い接頭音にあるニュアンス、装飾音符の哀しみが香ります。作品に添えられた題名は、想像を掻き立てられるものばかり。例えば4曲目『神秘的な拒絶』の開始部分。音にためらい、なんともエロティックな瞬間です。丁寧に調整すると、浮世離れた音が再生されて。あらためて、音楽と音に溺れました。この時代60年代半ば、わが国の音楽愛好家がグールドではなく、彼女のような存在に気づいていれば、我が国でも技術が伴う“芸風”を備えた演奏家ももっとも出現していたはず。「騒ぎたい人には、騒がしておきなさい」と、グールドについて学生に訊かれて、彼女はそう答えたそうです。彼女が弾くクープランは静かです、が、自由な羽ばたきと官能があります。18世紀の作曲家と20世紀の演奏家が共通の言語で自然に会話しているのを聴きましょう。 盤美品〜ほとんど美品 ジャケットほとんど美品 (限定番号078) 10インチ FP #66 ¥38000